

令和8年度(令和7年度事業)

**教育委員会に関する事務の
点検・評価報告書**

令和8年9月

にかほ市教育委員会

はじめに

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。

にかほ市教育委員会でも、法律の趣旨にのっとり、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすため、学識経験者の知見を活用した点検及び評価を行い、報告書を作成しました。

この点検及び評価に基づき、施策の効果の検証と改善を図りながら、教育行政の公正かつ適正な執行につとめてまいります。

令和8年9月

にかほ市教育委員会

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

評価の実施方法	1
事務事業評価表について	1～2
評価結果の公表	2
事務事業評価一覧表	3
事務事業評価表	4～13
評価委員の意見(総評)	14～15

1 評価の実施方法

点検・評価の対象

令和7年度に実施している事務事業のうち、教育委員会各課等の課題や目標として定めた重点項目10事業を選定し、点検及び評価を行いました。

点検・評価の観点

事務事業の目的・内容に照らし、投入した事業コストに対して実績や成果と必要性、有効性、効率性、達成度から、客観的な評価を行ったうえで、内部評価、事業の方向性について総括しました。

点検・評価の主体及び方法

事務事業評価表により担当課による事業検証を実施するとともに、外部評価委員からの意見・評価をいただきました。

2 事務事業評価表について

対象とする事業

点検及び評価の対象は、本市教育の基本方針による重点目標に即した取り組みとして実施している令和7年度の主な施策・事業等としています。

評価者

所管課の事業担当者が評価者となり自己評価を行いました。

I. 事業の目的・内容(Plan)

事業の目的・内容

何のために当該事業を行っているのか、事業実施により何をどうしたいのか、どういったことが課題なのか、目的・内容・課題について記載しています。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト

事業費は、各年度における決算額を千円単位で記入し、概算人件費は、事務事業の実施にどの程度の人件費を費やしているかを記載しています。

実績及び成果

事業費及び人件費を投入した結果、どれだけの事業を実施することができたか、また、目的が達成されたか把握できるように、事業の実施によってもたらされた直接の成果についても可能な限り数値で表しています。

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価

事業の評価

必要性

現在の市民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうか、縮小又は休止・廃止した場合の影響は大きいかを評価しました。

有効性

施策や運営方針、市で策定した総合発展計画の目標成果が得られているかどうか、市民の満足度が得られているかを評価しました。

効率性

事業コストがかかりすぎていないか、事業が効率的に実施できたかを評価しました。

達成度

計画どおり達成しているかを評価しました。

内部評価

事務事業の費用対効果や手段の妥当性等を教育次長及び所管課の長が評価を行い、課題等への対応やその結果を記載しています。

(2) 事業の今後の方向性

現状の課題と今後の取組み

当該事業の実施に際して生じた課題の抽出とそれに対応する今後の取組みを記載しています。

総合評価

所管課が評価した結果について、「にかほ市教育委員会評価委員会」から総合評価をいただきました。

外部評価委員の意見・評価

所管課が評価した結果について、「にかほ市教育委員会評価委員会」から選定した全項目についてご意見をいただきました。評価の客観性により所管課では気づかなかった点が確認できるとともに、問題・課題の解決につなげます。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取組み

内部評価結果及び外部評価結果を分析し、一層の事務事業の改善に取り組み、学校教育・生涯学習などの教育行政の更なる推進を図ります。

3 評価結果の公表

教育委員会教育総務課で所管課の評価表を総括のうえ、ここに報告書としてまとめました。本報告書は市議会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、市民からの意見も広く聴取します。

R7年度事務事業評価 事業一覧

重点目標	番号	事務事業名	担当課
知・徳・体の調和のとれた 子どもの育成	1	小・中学校施設及び設備の維持 管理業務	教育総務課
	2	学校生活・学習サポート事業	学校教育課
多様な学習機会の提供	3	二十歳を祝う会	生涯学習課
	4	にかほ再発見！自然観察会	仁賀保公民館
	5	消しゴムはんこ教室	象潟公民館
	6	発明工夫・未来の科学の夢絵画 展	フェライト子ども科学館
	7	子ども映画会	図書館こぴあ
	8	収蔵資料デジタルアーカイブ化事 業	白瀬南極探検隊記念館
	9	展示室リニューアル事業	仁賀保勤労青少年ホーム
伝統文化の保存・継承	10	伝統芸能継承推進事業	文化財保護課

発展計画の目標	知・徳・体の調和のとれた子どもの育成	番号	1
事務事業名	小・中学校施設及び設備の維持管理業務	主要施策	その他の事業
		担当課	教育総務課
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10 項 2.3 目 1 節
事業の目的	学校施設の機能を維持し、児童・生徒・先生が安心して快適な学校生活を送れるように、建物及び設備や外構等の機能と状態を適切な状態に維持管理すること。		
事業の内容	市内小中学校の建物及び設備や外構等の状態について学校からの連絡及び現地確認により状況把握し、修繕・工事や保守委託等によりその機能を維持する。		
事業の課題	市内の設備の老朽化に伴い、近年は突発的な修繕が相次ぎ、当初予算額では対応しきれずに補正予算や予備費での対応が増えている。		

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費	① 千円	64,948	47,745	41,871
	うち一般財源	千円	64,948	38,845	41,871
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.6	0.6	0.6
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ)	② 千円	4,160	4,346	4,540
	オ 総コスト ① + ②	千円	69,108	52,091	46,411
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	小・中学校工事費	千円	26,235	13,634	11,071
	小・中学校修繕費	千円	5,862	6,875	2,300
	小・中学校委託料	千円	32,851	27,236	28,500

(1) 事業についての評価(Check)

事業の 評価	必要性	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	縮小・休止・廃止の影響は大きい	児童生徒や教職員が1日の大半を過ごす場所であり、事業の休止や廃止による影響は非常に大きい。	
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	市民の満足度が得られている	児童生徒や教職員が気持ちよく、安心して学校生活を送るために行う事業であり、市民の満足度はおおむね得られているといえる。	
評価	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない	
	効率的に実施できた	修繕や工事の要望については、実際に現地を確認して学校側から聞き取りを行い、優先順位をつけて実施しているという部分においては概ね効率的に実施できているといえる。	
内部 評価	達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない	
	目標を計画どおり達成している	予算措置した修繕や工事、施設の保守管理の委託業務は順調に進捗しているため、「ほぼ達成」の評価としたが緊急修繕については、当初予算内で対応できず、補正予算や予備費で対応することになる。	
	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
	手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()	
内部 評価	事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()	
	評価に対するコメント	修繕や工事については優先順位をつけ、児童・生徒・先生が安心・安全な学校生活を送れるよう計画的に実行していきたい。	

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	市内学校施設及び設備等の老朽化により、突発的な修繕が増えている。令和6年4月に策定した「学校環境適正化基本計画」により、今後、市内の小・中学校の適正化(統合)を図っていく計画があるが、今後どの学校を何年使用するということまで定まっていない現状ゆえ、大規模な修繕を簡単に行うことが出来ない。
今後の取り組み	学校からの要望については、現地確認や、関係業者の意見を伺いながら優先順位をつけて計画的に工事及び修繕を進める。突発的な修繕については緊急度が高いものが多いため、児童生徒や教職員が安心して学校生活を送れるよう財政課と協議のうえ対処していく。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	行財政改革という非常に難しい時期だが、引き続き、学校と連携をし、現地確認や工事業者との立ち合いを行い、緊急性の優先順位をつけて、安全安心の確保を継続いただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	学校施設の維持管理は、学校環境適正化基本計画(学校再編計画)や公共施設等総合管理計画など様々な計画に関係しており、市の行財政改革もあいまって、今後ますます取り組みが難しくなるが、学校生活における安心と安全の担保は最も重要であり、児童・生徒・先生が安心して学校生活を送れるように事業を進めていく。
---------	---

発展計画の目標	知・徳・体の調和のとれた子どもの育成			番号	2					
事務事業名	学校生活・学習サポート事業	主要施策	児童生徒の学力向上及びたくましい心と体の育成							
		担当課	学校教育課							
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項	2・3	目	1	節	1
事業の目的	個別支援を必要とする児童生徒に対し、話の聞き取り、読み書き等の学習支援や身辺整理、集団適応等の生活支援を行い、安定した学校生活を送ることができるようにする。									
事業の内容	学校生活・学習サポート支援員を各学校のニーズに応じて配置する。 (小学校19人、中学校7人、合計26人)									
事業の課題	少子化により児童生徒数が減少(昨年度比-41人)しているにもかかわらず、サポートの支援を必要とする児童生徒が64人(昨年度比+2人)おり、学校からの要請に応えることが困難な状況にある。									

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分		単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費	①	千円	69,413	72,471	60,264
		うち一般財源	千円	69,413	72,471	60,264
	イ 事務事業従事者数(年間)		人	0.1	0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)		千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ)		千円	693	724	756
実績及び成果	オ 総コスト		① + ②	千円	70,106	73,195
	名 称		単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	サポート対象児童・生徒数		人	62	64	80
	サポート支援員配置数		人	27	26	23
						-

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	縮小・休止・廃止の影響は大きい	児童生徒が安定した学校生活を送れる環境を整えるほか、教員の多忙化防止の面でも、本事業の必要性は高い。	
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	市民の満足度が得られている	支援員のサポートにより、落ち着いた学校生活に向かっている。 また、支援員の配置を要望する保護者も増えている。	
評価	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない	
	効率的に実施できた	毎年、教育支援委員会を開催し、各学校の必要数を把握しながら支援員を配置している。	
内部評価	達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない	
	目標を計画どおり達成している	児童生徒の成長が見られるとともに、教員の多忙化も削減されており、配置の効果は確実に現れている。	
	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
	手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()	
評価に対するコメント	事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()	
	学習支援や生活支援を必要とする児童生徒に対して、個別に指導を行うことで、自立の一助となっているとともに、教員の負担軽減にも寄与している。		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	各学校の要請数に応えることができるような配置数になっていない。支援員の高齢化。
今後の取り組み	研修会を定期的で開催し、支援員のスキルアップに努めるとともに、支援員数の維持、増員についても検討していきたい。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	支援を必要とする児童生徒に対して、個別に指導することで自立の一助となる必要な事業である。支援が必要な児童生徒が増加する一方で支援員が減少する大変な状況ではあるが、今後も学校の中での連携を密にしながら、本当に支援を必要とする子により深く関わっていただき、その子の安全、安心、学校生活への適応などいろいろな面に対応をお願いしたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	支援員が担任や特別支援教育コーディネーターと情報を共有し、方針を統一する場を設ける。支援員の人数が減少したため、真に支援を必要とする児童生徒に注力し、緊急性・必要性の高いケースへ優先的に配置する。また、対象の児童生徒の特性の理解、心理的ケア、自立を促す声かけなど実践的なスキルアップを研修会を通して図っていく。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	3
事務事業名	二十歳を祝う会	主要施策	生涯学習の推進と充実
		担当課	生涯学習課
I. 事業の目的・内容(Plan)	予算科目	款	10 項 4 目 1 節

事業の目的	大人としての自覚を促す機会として、その門出を祝い励ますと同時に、未来に希望を持たせ、家族やお世話になった人へ成長と感謝を報告する場を設ける。
事業の内容	当事者たちが実行委員会を組織し、準備や運営に携わることで、協働の意識づくりを図る。式典参加者は中学校卒業時の担任や恩師による点呼のほか、集合写真を撮影する。
事業の課題	対象者が多数のため、参加者の把握事務（コスト）と個人情報管理の複雑さが懸念される（実行委員の補助）。式典会場の設営及び効率的なイベント運営について、他課との協働による開催をお願いしたい（協力体制の強化）。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	419	557	216
	うち一般財源	千円	419	557	216
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.2	0.2	0.2
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	1,386	1,448	1,513
	オ 総コスト ① + ②	千円	1,805	2,005	1,729
	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
実績及び成果	対象人数	人	266	253	255
	参加人数	人	192	167	165
	参加率	%	72.2	66.0	65.0

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない 若者たちの成熟を公的に認知するための儀式であり、人生の節目を肌で感じさせるために必要である。
	有効性 市民の満足度が得られているか	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない 進路により地元を離れた人が帰省するきっかけになり、旧友との親交を深める場となっている。また、地元の伝統や文化を再確認するとともに、それを伝える貴重な機会であり、地域コミュニティの結びつきを強化するためにも重要である。
	効率性 効率的に実施できたか	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない コロナ禍中は、参加することができない対象者のために式典をライブ配信していたが、今後は配信を終了し、より多くの対象者が式典に参加できるよう工夫していきたい。市制20周年に合わせたサプライズイベントを盛り込んだ。
	達成度 目標を計画どおり達成しているか	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない 早い段階で対象者を絞り、実行委員会の設置や通知等による発送業務を行った。ふるさと「にかほ市」の魅力を再発信し、できるだけ高い参加率となるよう、他課の協力を仰ぎながら実施したい。当日の画像をアーカイブで1年間配信中。
内部評価	総合評価	費用対効果 コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性 手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
内部評価	評価に対するコメント	公共施設の老朽化に伴い、会場設定が不安定な状況である。今後は対象規模を想定しながら設営等に伴う経費削減に努める。また、地元の伝統文化等を知ってもらう機会として、どのような手法があるか検討し、にかほ市の魅力を若者たちに再発信したい。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	郵送料や材料代、人件費等の高騰により、今までより時間やコストが増大することが懸念される。R6年度から記念品を廃止しているが、低予算でできるアトラクション等を検討する。
今後の取り組み	SNSやDXを取り入れながら、参加率を向上させる方法を検討する（QRコード・インスタ等）。当日は「にかほ市紹介映像」や「思い出映像」などを放映し、参加特典を付与したい。「しおり」印刷廃止。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	事業は試行錯誤しつつも継続すべきだが、人生の節目を祝う唯一の貴重な場として、反省点を次回に活かしながら開催を継続してほしい。時代の変化に合わせ、開催内容をアップデートしながら開催していただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	企画実行委員を中心に対象者の意見を聞きながら開催内容について協議する。記念写真やデジタル版「しおり」の作成についても検討し、開催内容のアップデートを図る。次回開催の糧とするよう事業終了時にアンケートを実施する。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供			番号	4
事務事業名	にかほ再発見！自然観察会	主要施策	生涯学習の推進と充実		
		担当課	仁賀保公民館		
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項 4 目 2 節
事業の目的	市内外の湖沼や山道を散策しながら草木や地形を観察し、身近にある自然への理解を深めるとともに、地元の魅力を知ってもらう。				
事業の内容	「先人の足跡を訪ねて」というテーマで3回に渡り市内外を散策する。				
事業の課題	長年にわたり継続している講座だが、近年は受講者の固定化がみられる。				

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	40	45	30
	うち一般財源	千円	40	45	30
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.10	0.15	0.10
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	693	1,086	756
	オ 総コスト ① + ②	千円	733	1,131	786
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度予定
	実施回数	回	2	3	2
	参加人数(延べ人数)	人	56	37	40

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない		
	有効性 市民の満足度が得られている	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない		
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない		
	達成度 目標を計画どおり達成している	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない		
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が	☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が	☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()	
	評価に対するコメント	長期開催講座で、参加者の固定化が見られる。受講者のアンケートの多くが高評価で継続を希望している。地元の良さを知ることができる講座であり継続して実施していきたい。		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	受講者の固定化。熊が人里まで出没しているので、今後の講座実施に不安がある。
今後の取り組み	新規受講者が増えるよう、講座で得た地元の魅力を館内、SNSに掲示していく。また、熊の出没情報を見て安全を確認しながら実施していく。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	身近な自然への理解を深め、地元の魅力を再発見できる貴重な事業である。参加者の固定化を防ぐ工夫を凝らしつつ、安全面にも配慮して取り組んでいることから、今後も創意工夫をして、事業を継続いただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	多様な年齢層からの参加者を募るためSNSなどの周知方法も取り入れる。また、野生動物対策など参加者への安全対策を配慮した事業内容にする。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供	番号	5
事務事業名	消しゴムはんこ教室	主要施策	生涯学習の推進と充実
		担当課	象潟公民館

I. 事業の目的・内容(Plan)

事業の目的	木版画と作業工程や使う道具が類似している消しゴムはんこに着眼。郷土に愛着と誇りを持てるような人材を育てることや、芸術・創作活動の楽しさを知ることが目的とする。
事業の内容	市内小学4～6年生対象。講師の作品や作業の実演を見学。消しゴムはんこのデザイン、彫り、様々な形の消しゴムはんこを組合わせた作品を作成。作品は市民文化祭時に展示。
事業の課題	地元を代表する作家、池田修三氏の木版画に興味を持ってもらうまでには至っていない。

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
事業コスト	ア 事業費 ①	千円	8	8	8
	うち一般財源	千円	8	8	8
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.1	0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	693	724	756
	オ 総コスト ① + ②	千円	701	732	764
	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
実績及び成果	受講者(延べ人数)	人	17	18	18

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない
	有効性 市民の満足度が得られている	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない
	効率性 効率的に実施できた	☒ 効率よく実施 ☐ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない
	達成度 目標を計画どおり達成している	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない
内部評価	総合評価	費用対効果 コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性 手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性 ☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
評価	評価に対するコメント	アンケートの結果から事業の有効性は非常に高く参加率も非常に良いため、引き続き同様の内容で教室を開催していきたい。

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	地元を代表する作家、池田修三氏の木版画に興味を持ってもらうまでには至っていない。
今後の取り組み	教室の冒頭に池田修三氏についてのお話をしたり、実際に木版画の作品を見てもらうなどして木版画に対する興味や、地元へ愛着を持ってもらえるような取り組みを取り入れる。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	芸術創作活動の楽しさを知ってもらい、また、地元の池田修三作品の素晴らしさを知ってもらうための事業である。来年度に向けて池田修三作品を実際に見てもらう機会を設けることが企画されており、今後も工夫を凝らしながら継続いただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	象潟郷土資料館と連携し、制作前に資料館を見学します。実際の作品に触れる機会を設けることで、郷土の芸術家への親しみと学びに繋がりたいねらいです。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供			番号	6
事務事業名	発明工夫・未来の科学の夢絵画展	主要施策	「フェライト子ども科学館」「白瀬南極探検隊記念館」の充実		
		担当課	フェライト子ども科学館		
Ⅰ. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項
			4	目	8
		節			
事業の目的	児童生徒の科学への向上心を高める施策と科学振興に関する諸事業の計画と実施。				
事業の内容	小中学生より作品を募集し、科学振興委員会（主に小中学校の理科担当の職員を委嘱）を中心にした審査会・展示会を開催する。入賞作品は県・全国大会へ出点する。				
事業の課題	小中学校の統合や小規模化により小学校では理科専門職員が少なくなり、小学校においては不在になることもある。				

Ⅱ. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	106	67	93
	うち一般財源	千円	106	67	93
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.10	0.10	0.10
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	693	724	756
	オ 総コスト ① + ②	千円	799	791	849
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	出展数(発明工夫作品)	点	56	49	50
	出展数(未来の科学の夢絵画作品)	点	360	303	300

Ⅲ. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の 評価	必要性	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	発明や工夫の楽しさ、自由な発想を絵に表現することなど、子どもたちの豊かな感性を伸ばす事業であり廃止の影響は大きい。	
	有効性	☒ 得られている ☐ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	市民の満足度が得られているか	文化祭入館無料期間中に入賞作品を展示し、全国展入賞作品は広報でも紹介される市民への周知を図っている。	
効率性	☒ 効率よく実施 ☐ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない		
	効率的に実施できたか	科学振興委員会(主に小中学校の理科担当により構成)が主体になり、効率的に実施している。	
達成度	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない		
	目標を計画どおり達成しているか	毎年、一定数の作品を申し込んでいただいている。	
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
評価に対するコメント	未来の科学の夢画展では、ここ数年市内児童の作品が全国展で上位入賞を果たしており、引き続き、事務局として事業を支援する。		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	未来の科学の夢画は出展作品数・優秀作品ともに多いが、発明工夫作品はやや少ない。
今後の取り組み	優秀作品や上位入賞のコツ等を紹介するなど、創作のモチベーション向上につながるような取り組みを行いたい。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	児童生徒の科学への向上心を高めるにかほ市の特性ある事業である。1年生から6年生まで継続して取り組むのがこの作品展の良い点でもあり、子どもたちの成長に合わせて作品が生み出されていく。他市にはない素晴らしい事業であることから現状のまま継続いただきたい。

Ⅳ. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	子どもたちの成長に合わせた作品が思い出深い作品になるよう、科学館、学校(科学振興委員会)、家庭が連携した取り組みを進めたい。
---------	--

発展計画の目標	多様な学習機会の提供			番号	7
事務事業名	子ども映画会	主要施策	図書館の充実		
		担当課	図書館こびあ		
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項
事業の目的	図書館で映画を観る機会をつくることで、図書館をもっと身近に感じてもらい、たくさんの人に利用してもらうことを目的にしている。				
事業の内容	図書館に興味を持ってもらうきっかけをつくるため、子どもたちを対象に長期休業中に開催する。				
事業の課題	開催時期によっては、たくさんの行事と重なり子どもたちの参加に繋がっていない。少子化に伴い絶対数が減少しており、対象者の拡大を考慮した取り組みが必要。				

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	10	15	15
	うち一般財源	千円	10	15	15
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.1	0.1	0.1
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	693	724	756
	オ 総コスト ① + ②	千円	703	739	771
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	参加人数	人	2	28	30
	開催回数	回	1	1	1

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性	☐ 影響は大きい ☒ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない		
	縮小・休止・廃止の影響は大きいのか	より多くの方々から図書館を利用してもらい、読む力・考える力・調べる力を養う機会を提供したい。幼少期における経験から大人になっても習慣化することで、市民の心豊かな生活に寄与する。		
	有効性	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない		
	市民の満足度が得られているか	昨年度は学校行事と重なり、せっかくの機会を活かせなかったため、開催時期の検討を行っている。どんなテーマがいいのか事前に対象者の保護者等にアンケート調査を行うなど、興味がある作品の検討を行う必要がある。		
	効率性	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない		
効率的に実施できたか	毎年春休み期間中に開催していたが、期間が短い。新学年に向けて忙しい時期でもあるため、今年度は夏の開催の開催も試みた。また、開催時期に合わせ、SNSを活用したPRをおこなっている。			
達成度	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない			
目標を計画どおり達成しているか	目標をどこに置くかで達成度が変わってくる。対象者の絶対数が減少傾向なので、単に人数だけでは判断しづらい。「有効性」でも述べた通り、事前事後のアンケート等により具体的な目標と実績を把握する必要がある。			
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない	
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☒ ある ☐ なし ☐ その他 ()	
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 (事業のカスタマイズ)	
評価に対するコメント	前例踏襲ではなく、時代の流れに少しずつカスタマイズしながらも、揺るがない目的を達成するために継続していく必要がある。満足度の調査や今後の希望調査(上映内容)等を行う。			

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	参加人数は年々減少傾向にある。周知徹底が図れているかを再度見直し、図書館に足を運んでももらえるような魅力あるテーマを検討する。
今後の取り組み	現段階では対象者が「子ども」となっているが、親子連れや、高校生以上の若年層、もしくは大人を対象とした事業へもシフトしていくことも検討したい。また、周知方法も広報以外、SNS等を利用する。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	図書館で映写会を開催し「図書館に親しみきっかけづくり」として意義のある事業である。工夫を凝らした取り組みを行っており、今後も工夫をしながら事業を継続し、利用者拡大に努めていただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	広報紙、SNS、館内展示等を活用し周知の強化を図るとともに、学校行事等と重ならない開催日の設定に努め、年齢層に応じた上映作品の選定や関連図書展示を行い、参加しやすく魅力ある事業として継続していく。
---------	--

発展計画の目標	多様な学習機会の提供		番号	8
事務事業名	収蔵資料デジタルアーカイブ化事業	主要施策	「フェライト子ども科学館」「白瀬南極探検隊記念館」の充実	
		担当課	白瀬南極探検隊記念館	
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10 項
事業の目的	白瀬南極探検隊記念館で展示されている展示物は、記念館が収蔵する資料群の一部である。収蔵する資料をデジタルアーカイブ化し、公開することで、関係人口の拡大、シビックプライドの醸成、「地域学の推進」等に寄与していく。			
事業の内容	・収蔵資料のデジタルアーカイブ化 ・デジタルミュージアムとしての公開			
事業の課題	・継続的なデータ更新 ・専門的な人材の確保			

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	76,464	3,103	(3,618)
	うち一般財源	千円	116	0	(0)
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	1.5	0.5	-
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	-
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	10,401	3,622	-
	オ 総コスト ① + ②	千円	86,865	6,725	-
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	資料目録数	点	5,482	82	(530)
	デジタル化したカット数	枚	95,872	1,281	-
	デジタルミュージアムのページビュー数	回	-	77,483	-
	学校教育における授業での利用数	回	-	0	-

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない 公開されたデジタルミュージアムは、市内博物館施設4館の収蔵資料を公開するものである。未登載資料に関しては7年度以降、各館が順次登載していく計画となっている			
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない 展示室にはすべての収蔵資料が展示されているわけではないので、非展示資料も閲覧可能となる			
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない 特殊な技術が必要となるデータの登載は専門の業者委託となるが、それ以外は協定を結ぶNPO法人に委託する			
	達成度 目標を計画どおり達成している	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない 未登載資料及び新規資料も、年度末までに登載される予定となっている			
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が	☒ あがっている ☐ あがっていない	
		手段の妥当性	手法を見直す必要が	☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()	
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()		
評価に対するコメント	令和6年度に交付金等を活用して整備したが、未登載資料も残っており、新規資料を含めてアーカイブ化を進めていく必要がある。				

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	(NPO法人委託を含む) 自前によるデジタルアーカイブ化
今後の取り組み	・TDK歴史みらい館を含めた連携 ・デジタルミュージアムの内容の充実
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	学校の授業での利用が無いという課題があり、その点の工夫と改善が必要ではあるが、デジタルアーカイブ化し公開する事業として、また、歴史を未来に残すという大きなプロジェクトとしても継続していただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	まずは、6年度中に登載できなかった各館の資料を年度ごとに順次登載し、アーカイブとして充実させていく。 長期的には、登載資料の読み下し文や解説文を付け加え、デジタルミュージアム機能の充実を図る。
---------	---

発展計画の目標	多様な学習機会の提供			番号	9					
事務事業名	展示室リニューアル事業	主要施策	生涯学習の推進と充実							
		担当課	仁賀保勤労青少年ホーム							
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款	10	項	4	目	6	節	12
事業の目的	2026年（令和8年）の斎藤宇一郎没後100年にあわせ展示室のリニューアルを実施する。									
事業の内容	展示室リニューアルを第2、第3展示室をリニューアルする									
事業の課題	既存の展示施設のリニューアルの方向性									

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	7,150	7,150	-
	うち一般財源	千円	0	0	-
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.25	0.20	-
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	-
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	1,733	1,448	-
	オ 総コスト ① + ②	千円	8,883	8,598	-
実績及び成果	名 称	単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度見込
	ディスプレイパネルの更新	基	5	5	-
	グラフィックパネル更新	枚	18	37	-
	映像モニター	基		1	-

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない 昭和56年オープン以来約40年以上リニューアルが行われていないことや、令和4年度に博物館法が改正されたことにより、博物館の活用の取り組みが求められている。				
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない 博物館法の改正や2026年(令和8年)に斎藤宇一郎没後100年を迎えることから、映像も取り入れてよりわかりやすい展示を実施している				
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない 展示のリニューアルについては、検討委員会のご意見を取り入れつつ効率的に実施できている。				
	達成度 目標を計画どおり達成している	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない 限られた事業費のなかで既存施設のリニューアルとしては目標は達成している				
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が	☒ あがっている ☐ あがっていない		
		手段の妥当性	手法を見直す必要が	☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()		
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()			
評価に対するコメント	令和8年の斎藤宇一郎没後100年を迎えるにあたり、展示室リニューアル基本計画を見据えたリニューアルを実施した。					

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	展示室リニューアル基本計画を策定しているが、今後の計画や実施予定の検討
今後の取り組み	展示室に関する人材の育成
総合評価	☐ 拡大 ☐ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☒ その他(事業の完成)
外部評価委員の意見・評価	展示室リニューアル事業としては順調に完成している。今後、展示室をお客様に周知をし、継続して楽しんでもらうための取り組みを期待する。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	より多くの方が展示室による郷土学習の機会を得ることができるよう、宇一郎没後100年事業やデジタルミュージアム活用のPRと併せて、市ホームページやSNS等を通じて効果的な周知を図る。
---------	--

発展計画の目標	伝統文化の保存・継承		番号	10
事務事業名	伝統芸能継承推進事業	主要施策	伝承芸能・年中行事の保存・継承	
		担当課	文化財保護課	
I. 事業の目的・内容(Plan)		予算科目	款 10	項 4 目 10 節
事業の目的	貴重な無形民俗文化財の保存継承と、伝統芸能に携わることで地元への郷土愛を育むとともに、世代間交流を通して地域とのつながりを作る			
事業の内容	市内小中高校での伝承芸能公開事業及び鳥海山伝承芸能祭を開催			
事業の課題	伝統芸能や年中行事の記録と調査を行い、貴重なものは指定文化財として保存継承に努める必要があるが、後継者不足により継承が難しい。地域全体で継承する体制づくりが必要			

II. 事業の取り組みとコストの状況(Do)

事業コスト	区 分	単位	R6年度決算	R7年度決算	R8年度予算
	ア 事業費 ①	千円	760	627	699
	うち一般財源	千円	760	627	699
	イ 事務事業従事者数(年間)	人	0.2	0.2	0.3
	ウ 年間平均給与額(共済費含む)	千円/人	6,934	7,244	7,568
	エ 概算人件費(イ×ウ) ②	千円	1,386	1,448	2,270
	オ 総コスト ① + ②	千円	2,146	2,075	2,969
実績及び成果		単位	R6年度実績	R7年度実績	R8年度予定
	市内小中高校での伝承芸能公開事業		2	1	2
	鳥海山伝承芸能祭見学者数		150	270	270

III. 事業の評価(Check)、今後の方向性(Action)

(1) 事業についての評価(Check)

事業の評価	必要性 縮小・休止・廃止の影響は大きい	☒ 影響は大きい ☐ やや影響がある ☐ 影響はほとんどない	
	有効性 市民の満足度が得られている	☐ 得られている ☒ 概ね得られている ☐ 得られていない ☐ 現時点で判断できない	
	効率性 効率的に実施できた	☐ 効率よく実施 ☒ 概ね効率よく実施 ☐ 効率が悪い ☐ 現時点で判断できない	
	達成度 目標を計画どおり達成している	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 未達成 ☐ 現時点で判断できない	
内部評価	総合評価	費用対効果	コストに見合った効果が ☒ あがっている ☐ あがっていない
		手段の妥当性	手法を見直す必要が ☐ ある ☒ なし ☐ その他 ()
		事業の方向性	☐ 拡大 ☒ 現状どおり継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
評価に対するコメント	にかほ市伝承芸能保存団体連絡協議会と連携を図りながら、市内小中高校との交流事業や公開事業を実施する		

(2) 事業の今後の方向性(Action)

現状の課題	演者や演奏者の後継者不足により活動が休止している団体もあり、地域全体で継承していく体制を検討する必要がある。
今後の取り組み	にかほ市伝承芸能保存団体連絡協議会・地域おこし協力隊・市内小中高校等と連携し、貴重な無形民俗文化財の保存継承に努める。
総合評価	☐ 拡大 ☒ 現状のまま継続 ☐ 見直して継続 ☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他 ()
外部評価委員の意見・評価	後継者不足という課題はあるが、にかほ市伝承芸能保存団体連絡協議会、地域おこし協力隊、市内小中高校などと連携しながら取り組み、たくさんの方の目に触れる機会を設けており、続けることが力になるよう現状のまま継続いただきたい。

IV. 評価委員会の評価を踏まえた事業の方向性

今後の取り組み	鳥海山北麓獅子舞番楽の指定を受け、祝賀機運を高め鳥海山伝承芸能祭を前倒して6月21日に開催します。この好機を逃がさず、仁賀保高校と連携した伝承事業(保存団体による番楽体験)を再開します。
---------	---

評価委員会の意見（総評）

1. はじめに

令和7年度の教育行政に係る事務事業について、計10事業の点検および評価を行った。これまでは事務局が選定した10事業を評価してきたが、本年度からは各課が提案した2事業の中から、評価委員が多数決で選択した1事業を対象とし、合計10事業を点検・評価する方式へと改められた。

評価にあたっては、事務事業評価シートをもとに各課担当者から説明を受けた。評価シートに加えて補足資料も整備されており、内容は理解しやすく、委員からの質問にも丁寧かつ的確に回答いただいたことで、事業への理解を一層深めることができた。全体として、職員がそれぞれの事務事業の目的や課題、方向性を的確に把握し、市民の声にも真摯に向き合っている姿勢がうかがえ、職務への誠実な取り組みに敬意を表したい。

にかほ市は令和8年度からの3年間を「行財政改革集中期間」と位置づけ、専門部署を設置して行財政改革大綱に掲げる事業の評価と加速化を進めることとしている。公共施設の最適化、事務事業の見直し、歳入基盤の強化、行政の生産性向上の4項目を重点的取組事項として掲げ、全庁的に改革を推進していく方針である。

教育行政においても、これらの取組と歩調を合わせながら、引き続き点検・評価を重ね、市民にとって有益な事業の展開と教育行政のさらなる充実が図られることを期待する。

2. 知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

「小・中学校施設及び設備の維持管理業務」は、行財政改革という非常に難しい時期だが、引き続き、学校と連携をし、現地確認や工事業者との立ち合いを行い、緊急性の優先順位をつけて、安全安心の確保を継続いただきたい。

「学校生活・学習サポート事業」については、支援を必要とする児童生徒に対して、個別に指導することで自立の一助となる必要な事業である。支援が必要な児童生徒が増加する一方で支援員が減少する大変な状況ではあるが、今後も学校の中での連携を密にしながら、本当に支援を必要とする子により深く関わっていただき、その子の安全、安心、学校生活への適応などいろいろな面で対応をお願いしたい。

3. 多様な学習機会の提供

「二十歳を祝う会」は、事業は試行錯誤しつつも継続すべきだが、人生の節目を祝う唯一の貴重な場として、反省点を次回に活かしながら開催を継続してほしい。時代の変化に合わせ、開催内容をアップデートしながら開催していただきたい。

「にかほ再発見！自然観察会」については、身近な自然への理解を深め、地元の魅力を再発見できる貴重な事業である。参加者の固定化を防ぐ工夫を凝らしつつ、安全面にも配慮して取り組んでいることから、今後も創意工夫をして、事業を継続いただきたい。

「消しゴムはんこ教室」については、芸術創作活動の楽しさを知ってもらい、また、地元の池田修三作品の素晴らしさを知ってもらうための事業である。来年度に向けて池田修三作品を実際に見てもらおう機会を設けることが企画されており、今後も工夫を凝らしながら継続いただきたい。

「発明工夫・未来の科学の夢絵画展」については、児童生徒の科学への向上心を高めるにかほ市の特性ある事業である。1年生から6年生まで継続して取り組むのがこの作品展の良い点でもあり、子どもたちの成長に合わせて作品が生み出されていく。他市にはない素晴らしい事業であることから現状のまま継続いただきたい。

「子ども映画会」については、図書館で映写会を開催し「図書館に親しむきっかけづくり」として意義のある事業である。工夫を凝らした取り組みを行っており、今後も工夫をしながら事業を継続し、利用者拡大に努めていただきたい。

「収蔵資料デジタルアーカイブ化事業」については、学校の授業での利用が無いという課題があり、その点の工夫と改善が必要ではあるが、デジタルアーカイブ化し公開する事業として、また、歴史を未来に残すという大きなプロジェクトとしても継続していただきたい。

「展示室リニューアル事業」については、当該事業としては順調に完成している。今後、展示室をお客様に周知をし、継続して楽しんでもらうための取り組みを期待する。

4. 伝統文化の保存・継承

「伝統芸能継承推進事業」については、後継者不足という課題はあるが、にかほ市伝統芸能保存団体連絡協議会、地域おこし協力隊、市内小中高校などと連携しながら取り組み、たくさんの方の目に触れる機会を設けており、続けることが力になるよう現状のまま継続いただきたい。

以上で総評といたします。

令和8年9月

＜教育委員会評価委員＞

齋 藤 隆	学識経験者（行政職経験者）
佐 藤 正 隆	学識経験者（PTA役員経験者）
三 浦 順 子	学識経験者（学校教員経験者）